



「冬ソナよりも面白い、春の水辺・・・
でもサケもイワナも遡らない」

第7回

「干潟を守る日2005 in 信州」

諫早湾干潟が閉め切られてから7年。多くの生物が消滅し、不毛な大地だけが残されました。あの日を忘れず、再び繰り返さないために、今年も山国信州でイベントを開催します。

2005年4月23日（土） 午前10:00～午後3:00

場 所：明科町・水辺の楽校・自然体験交流センター「せせらぎ」
(明科町御宝田カモ・ハクチョウ飛来地東 TEL. 0263-62-6667)

参加費：300円 問い合わせ先：090-7269-5752（長坂）

報告①

「諫早湾の現状と
公共事業」ほか

持ち物

昼食・双眼鏡など

報告②

「信州の川からサケが消えたワケ」
田口康夫（溪流保護ネットワーク）

かつて川は上から下に森の養分や砂を運び、
魚は下から上に遡っていきました。
しかし、今、
川は寸断され、自由に流れることができません。
そのことは何を意味するのか。

イワナと砂防ダムの関係を例に、
川の働きについて考えます。

報告③

「安曇野の総合治水と景観を考える」
小林純子（穂高町）

2004年秋の穂高町桐沢土砂災害における
原因は何だったのか？
天満沢の復旧工事の工法と
行政の対応はどうだったのか？

長野県が進める万水川改修工事によって
安曇野の景観がどう変わるのか？

総合治水のあり方について、
現場から報告します。

昼食

午後：水辺の自然観察会

冬の間ハクチョウやカモで賑わった水辺は、
春になるとまったく様相が変わります。
冬のソナタとは違う、生きとし生きるもの
煌めく春のソナタ・・・。
春の生き物をじっくり観察しましょう。

主催：野生生物資料情報室 WILDLIFE INFORMATION CENTER FOR CITIZENS

協賛：溪流保護ネットワーク 安曇野環境ふおーらむ八面大王 長野県自然保護連盟